



法テラスの在り方に関する有識者検討会（第6回）

テーマ：業務効率化・AIの利活用

生成AIの技術的な到達点と、 公共での安全な活用に向けて

～ AI活用の「一般論」として、いま何ができ、どこに注意すべきか ～

2026年7月30日（木） 於：法務省

日本マイクロソフト株式会社 パブリックセクター技術戦略室 公森 義貴

「一般論」として、AIの「いま」をご紹介します



本日はAI技術の一般的な考え方をご紹介します。

具体的な仕組みの例として、一部でMicrosoft／Azureに触れます（例：このような考え方でデータを守る、等）。



問い ①

いま、AIで何ができるのか（技術的な到達点）

多様なモデル・RAG・AIエージェントなど、現在地を平易に。



問い ②

機微な情報を扱う公共の組織で、「安全に」使えるのか

データを守る技術と、「適材適所」の考え方を。

AIは「考える」→「創る」→「自ら動く」へ。 次は現実世界（フィジカルAI）

機械学習	深層学習	生成AI（LLM）	マルチモデル	AIエージェント	フィジカルAI
～2010年代	2012年～	2020～22年	2023～24年	2025年～	近未来
分類・予測	認識の飛躍	「創る」AIへ	「選ぶ」時代	自ら実行	現実で動く
迷惑メール判定、検索・レコメンド → 仕分けを自動化（時短）	画像・音声認識、AlphaGo(2016) → 紙・音声をデータ化（精度向上）	GPT-3 → ChatGPT、画像生成 → 調査・要約・下書きを代行（時短）	GPT-4・Copilot・Phi、多言語 → 用途で選び最適化（コスト減）	MAI、業務の一部を任せる → 議事録・調査・確認・要約・ドラフト文書作成まで一次対応を一括（大幅時短）	ロボット・自動運転・世界モデル → 防災・現場へ展開（将来）

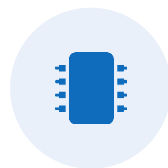
急速な進化：AIは「決められた処理」から「自分で創る」「多数から選ぶ」「自ら動く」へ進化してきました。次は「現実世界で動くAI（フィジカルAI）」。私たちは、その入口に立っています。
業務では、要約・下書き・議事録作成・一次対応など“手を動かす作業”を任せ始めています。

いまは「多様なモデルを、目的に応じて選ぶ」時代



汎用モデル

高度な文章理解・作成・要約・翻訳など、
幅広く対応。



軽量・高速モデル

低コスト・高速。定型処理や大量処理に向く。



専門モデル

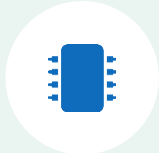
画像・音声・コードなど、特定用途に最適化。



ポイント：これらを1つのプラットフォームで使い分けられる。用途ごとに最適な「頭脳」を選ぶのが今の姿です。（“議事録を手打ちしない”のように、身近な業務からメリットが出ます）

代表的な使い道：文章の要約・翻訳・下書き、問い合わせへの応答、分類・整理 など

モデルは一つではない —— 性能とコストで「選び分ける」

 ¥¥¥ 高機能・高価格（フロンティア） 例：GPT-5系（上位）、Claude Opus、Grok など 向く用途：高度な推論・分析、複雑なエージェント 相対コスト≒300	 ¥¥ 汎用・バランス（中規模） 例：GPT-5系（mini）、Claude Sonnet、Llama、Mistral、Microsoft MAI 向く用途：一般的な文書作成・対話・要約 相対コスト≒5	 ¥ 特定用途・低価格（小型・特化） 例：Microsoft Phi（小型/SLM）、nano系、MAI（音声・画像・文字起こし） 向く用途：分類・抽出・定型処理、端末内(オンデバイス)処理 相対コスト≒1
--	---	--

要点：例えばクラウド環境においてもMicrosoftのPhi・MAIから、OpenAI・Anthropic・Meta等の主要モデルまで多数を選べるのが前提に（例：Azure AI Foundry）。「全部に最高級」ではなく、用途ごとに性能とコストで最適化できる（自動で選ぶmodel routerも）。Copilot なども自動選択モード搭載。

※ 選べるモデルは1,000超（例：Azure AI Foundry）。用途に応じて最適な性能・コストを選択できます。（一覧は参考資料）

※ 製品名は一例で、覚える必要はありません。（要点は「用途で選べる」こと）

◆ 同じ作業（≒同じトークン量）での価格差の目安 高機能：汎用：特化型 ≒ 300：5：1 （例：Azure OpenAI／Foundry の GPT-5 Pro：mini：nano、入力・出力とも同比率・2026年7月時点。上位ほど高価格・高騰傾向／実価格は検討時に確認が必要）

RAG：自組織のデータに基づいて答えさせる



AIの弱点：「もっともらしい誤り」を生むことがある／最新・自組織だけの情報は元々知らない。



① 業務データを検索

質問に関係する正確な社内情報を取り出す



② 根拠として渡す

取り出した情報をAIに「根拠」として与える



③ 出典付きで回答

根拠に基づき、出典を示して答える

RAGはモデルの大小やAIエージェントを問わず共通して使える“土台”の考え方です。 = 膨大な業務データを活かす中核技術。 文書・制度情報の業務にも適合性は高いです。

調べる→下書き→手続きを「自律的に」実行



AIエージェントとは

従来のAIが“アプリの中”で答えるのに対し、AIエージェントは“アプリを超えて”自分で調べ・手順を考え・作業の一部まで実行します（＝実行する「権限」を持つ）。



人が監督・最終判断

AIは下書きと実行、**確定と責任は人が担う。**

◆ 法テラス業務での“楽になり方”（例）

AI活用：相談記録の要約・制度説明文の下書き・多言語化→〈1つの作業〉が楽に

AIエージェント：相談記録→扶助申請書類の一式ドラフト→不備チェック→担当へ回付まで一括→〈手続き全体〉が楽に（人は確認・確定のみ）

民間での先端的な使われ方（一般化した例）



問い合わせの一次対応



書類・申請文のドラフト作成



社内ナレッジの横断検索



定型処理・コード作成の自動化

= 単発の回答から「業務プロセスを支える」段階へ。だからこそ“どこまで任せ、どの権限を与えるか”の設計が次の論点になります。

AIやAIEージェントは「人と同じように」扱い人として管理する



考え方：AIEージェントは「自ら動く」＝便利ですが、人と同じく強い権限を持ちえます。特別な新技術として身構えるより、「職員や社員を管理するのと同じ原則」で守るのが基本です。 エージェントも人と同様に誤り得ますが、複数のモデル／エージェントに自動で調査・下書きを分担させ、人は最終レビューに集中。人手だけより事前の調査・検証量を増やしつつ、人の工数を大幅に削減できます。



① 誰のエージェントか

各エージェントにID・持ち主（責任者）を明確にする（例：Entra ID）



② 何にアクセスできるか

必要な範囲だけ許可する「最小権限」。過剰なアクセスを防ぐ



③ 何をしたか（記録）

操作をログで追跡（例：Purview）。異常は検知して自動で遮断（例：Defender）

進め方：①可視化（全エージェントが見える化）→ ②統制（ID・最小権限・ルール）→ ③保護（実行時の監視・漏えい対策）。

技術は新しくても、セキュリティの原則（ID・最小権限・監査・ゼロトラスト）は変わりません。

AIEージェントは自由度が高い分、“どこで動かすか・どこまで権限を与えるか”の見極めが重層的に必要です。これが皆様に議論いただく出発点になります。

AIは強力。ただし「情報リスク」も伴う技術



AIはまず大きな恩恵をもたらします。安全対策は、その恩恵を“安心して”受け取るための備えであり、業務を増やすためのものではありません。ただし、「夢のある話」だけでは不十分。機微な情報を扱う組織では、「どの情報を・どこでAIにかけるか」の整理が前提になります。

考え方：情報の機微度（格付け）に応じて、AIを動かす「置き場所」を選ぶ

公開してよい情報

クラウドの利便性を活かして広く活用

特定組織内限りの情報（機微）

管理を強めたクラウド、または組織内設備・ローカルで

特に機密性の高い情報

データを外に出さない構成（オンプレ/ローカル）を検討

※ 機密性の高い情報（例：機密性2）の扱い方針は、各組織で整理が必要な段階。世界中の組織各組織で独自に議論する価値があります。

同じ生成AIでも、目的と機密性で「置き方」を選ぶ



① すぐ使う (SaaS)

完成したサービスを利用。導入が速い。

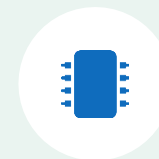
例 : *Microsoft Copilot* 型のツール



② 作り込む (PaaS)

自組織の業務データを使い、用途に合わせて構築。

例 : *Azure*上で安全に開発



③ 手元で動かす (オンプレ/ローカル)

高性能GPU基盤で、データを外に出さず実行。

例 : *Azure Local* / ローカルAI

要点 : 「生成AIはすべてクラウド」が前提ではありません。機密の度合いに応じて「適材適所」で選べます。

機密は「外に出さず」手元で動かすこともできる



高性能GPU基盤で「手元」で実行

クラウドに送らず、庁内の基盤上でAI推論を行う構成。



オンプレミス／ローカルAI

重要データを組織の管理境界の外に出さずに活用できる。



クラウドとの「使い分け」

利便性はクラウド、機微はローカル―目的に応じて両立。



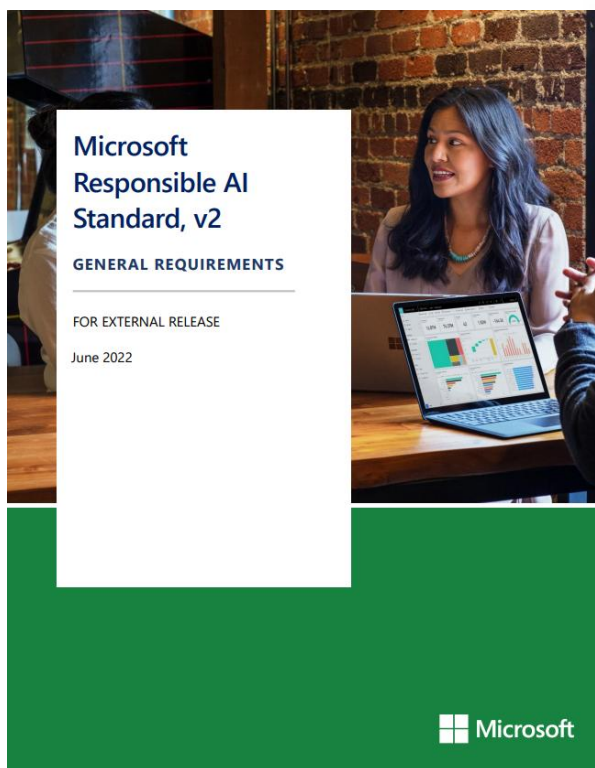
「全部クラウド」でも「諦める」でもない

データの機微度に応じた第三の道を選ぶ。

→ 「様々な方法がある」 ―― 技術は、公共の要件に合わせて選べる段階に来ています。

責任ある AI の取り組み

- AIを提供する事業者には、“責任ある開発・提供”が国内外で共通して求められています（日本では政府の『AI事業者ガイドライン』が該当指針。当社もこれに準拠）。マイクロソフトは世界中の要件も考慮しながら下記の6つのAI原則を定め、『責任あるAI』のガバナンス基盤・内部ポリシー・開発の指針としています。



AIに関する共同責任

Microsoftは責任あるAIの原則に則りAI機能を開発・提供します。利用者側も、Microsoft／自組織のガイドラインに準拠した利用が必要です。AIサービスは一般に利用規約が厳しく（誤用が他者を傷つけ得るため）、規約遵守と自組織ガイドライン整備という“共同責任”が伴います。

お客様が構築されるAIを活用したシステム

お客様による責任あるAIの利用

お客様がAIを責任ある方法で利用するためのガイドやツールを提供しています

Microsoft のAI機能



公平性



信頼性と
安全性



プライバシーと
セキュリティ



包括性



透明性



説明責任

Microsoft の責任あるAIの原則

話者認識の特徴と限界

[アトクリ]・2022/12/03・4人の共同作成者

この記事の内容

一般的なパフォーマンスガイドライン

公平性

スピーカー認識を評価し、統合して活用する

次のステップ

このセクションでは、スピーカー認識におけるパフォーマンスの意味、パフォーマンスを改善するためのベストプラクティス、スピーカー認識機能に関連する制限事項、公平性について説明します。



画像分析のデータとプライバシー

[アトクリ]・2023/07/19・6人の共同作成者

この記事の内容

画像分析ではどのようなデータを処理しますか？

画像解析はどのようにデータを処理しますか？

データはどのように保持され、どのような制限が可能ですか？

次のステップ

この記事では、Image Analysis サービスが顧客から提供されたデータを処理する方法について、大まかな詳細を説明します。Image Analysis は、コンプライアンス、プライバシー、セキュリティを考慮して設計されています。重要なお知らせですが、このテクノロジの実装はお客様の責任となります。Image Analysis を使用してコンテンツを転送および処理するために必要なすべてのライセンス、許可、またはその他のサードパーティの承認を確実に取得するなど、管轄区域で適用されるすべての法律と規制に準拠するのはお客様の責任です。

Azure OpenAI モデルにおける責任ある AI プラクティスの概要

[アトクリ]・2024/02/27・5人の共同作成者

この記事の内容

識別する

測定

軽減する

操作する

さらに 2 個を表示

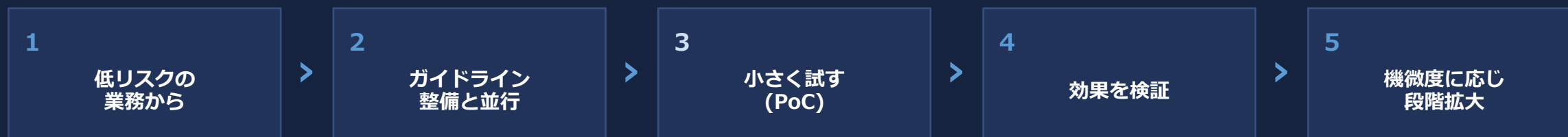
Azure OpenAI モデルの多くは、コンテンツやコードの生成、要約、検索などの高度な機能が改善された生成 AI モデルです。これらの改善の多くには、有害なコンテンツ、操作、人種のような動作、プライバシーなどに関連する責任ある AI の課題も増加しています。これらのモデルの機能、制限、適切なユースケースの詳細については、[透明性に関するメモ](#)を参照してください。

本日のまとめ

① **到達点** 「多様なモデルの選択 × RAG × エージェント」で、業務を支える水準に達しています。

② **公共での安全な活用** 技術的には可能。ただし「機密度 × 置き場所 × ガードレール × ルール・人」で設計するものです。

進め方の目安



恩恵が大きく、注意点は限られます（“便利さ” > “注意”）。ポイント： AIの「強かさ」と「情報リスク」の両面を踏まえ、「適材適所」で使うことが、公共領域での活用の鍵になります。

APPENDIX — ご参考資料（補足資料）

ここから先は、参考資料です

本編（生成AIの到達点と、公共での安全な活用）は前ページまでです。
以降は配布用の補足資料です。

事業者ガイドライン7Aに準拠しています

Responsible AI Transparency Report

別添7 A

チェックリスト
[全主体向け]

令和6年4月19日

本チェックリストは、AI事業者ガイドライン「第2部C.共通の指針」を要約したものです。
事業者に求められる重要な取組事項のチェックにご活用ください

※高度なAIシステムに関する事業者は、
「チェックリスト[別添7 B.高度なAIシステムに関する事業者向け]」も実施ください

チェック項目

☐人間中心

の考え方を基に、憲法が保障する又は国際的に認められた人権を侵すことがないようにしているか？

☐AIに関わる全ての者の生命・身体・財産、精神及び環境に危害を及ぼすことがないよう

安全性を確保しているか？

☐潜在的なバイアスをなくすよう留意し、それでも回避できないバイアスがあることを認識しつつ、回避できないバイアスが人権及び多様な文化を尊重する

公平性の観点から許容可能か評価しているか？

☐プライバシー

を尊重・保護し、関係法令を遵守しているか？

☐不正操作によってAIの振る舞いに意図せぬ変更又は停止が生じることのないように、

セキュリティを確保しているか？

☐透明性を確保するために、AI自体やAIシステム・サービスの情報をステークホルダーに対し合理的で技術的に可能な範囲で提供しているか？

☐データの出所、AIの意思決定等のトレーサビリティに関する情報やリスクへの対応状況等について、関連するステークホルダーに対して合理的な範囲で

アカウンタビリティを果たしているか？

☐AIガバナンスやプライバシーに関するポリシー

等を策定しているか？

☐上記の実現のため、各事業者の状況に応じた

具体的なアプローチを検討しているか？

検討には「具体的なアプローチ検討のためのワークシート」をご活用ください



人間中心の考え方と人権の保護 人権の保護: Microsoftは、AI技術が憲法や国際的に認められた人権を侵さないように設計されています。AIシステムの開発と運用において、人間中心のアプローチを採用し、すべてのステークホルダーの権利を尊重しています。
安全性の確保 安全性: AIシステムが生命、身体、財産、精神および環境に危害を及ぼさないようにするための安全性確保の取り組みが強調されています。具体的には、AIシステムのリスクを特定し、評価し、管理するためのプロセスが導入されています。
潜在的なバイアスの管理 バイアスの管理: 潜在的なバイアスをなくすための努力が行われており、回避できないバイアスがある場合でも、それが人権および多様な文化を尊重する公平性の観点から許容可能かどうかを評価しています。
プライバシーの保護 プライバシー保護: Microsoftは、AIシステムの開発と運用においてプライバシーを尊重し、関係法令を遵守しています。プライバシー保護のための具体的な措置が講じられています。
セキュリティの確保 セキュリティ: AIシステムが不正操作によって意図せぬ変更や停止が生じないように、セキュリティが確保されています。これには、AIシステムの設計、開発、運用におけるセキュリティ対策が含まれます。
透明性の確保 透明性: AIシステムやサービスの情報をステークホルダーに対して合理的で技術的に可能な範囲で提供することで、透明性を確保しています。これには、AIシステムの動作や意思決定プロセスに関する情報の提供が含まれます。
アカウンタビリティ アカウンタビリティ: データの出所、AIの意思決定等のトレーサビリティに関する情報やリスクへの対応状況等について、関連するステークホルダーに対して合理的な範囲でアカウンタビリティを果たしています。
AIガバナンスとプライバシーポリシー AIガバナンス: Microsoftは、AIガバナンスやプライバシーに関するポリシーを策定し、これに基づいてAIシステムの開発と運用を行っています。

クラウドサービスのコンプライアンス対応他

ISMAP筆頭に、各種コンプライアンスに対応しております。

- ISMAP認定へのリンク
 - [Office 365](#)
 - [Microsoft Azure, Dynamics 365, and Other Online Services](#)
- その他コンプライアンス対応状況は以下をご査収ください。

その他活動しているAI関連の団体

Association for Computing Machinery (ACM)

ACMIは、コンピュータサイエンスと情報技術の分野で世界最大の教育および科学コンピューティング協会です。Microsoftは、ACMと協力してAI研究を推進しています

NeurIPS (Conference on Neural Information Processing Systems)

NeurIPSは、機械学習と計算神経科学の分野で最も権威のある国際会議の一つです。Microsoftの研究者は、NeurIPSでの発表や参加を通じて最新のAI技術を共有しています。

IEEE (Institute of Electrical and Electronics Engineers)

IEEEは、電気電子工学および関連分野の専門家による国際的な組織であり、AI技術の標準化や研究を推進しています。MicrosoftはIEEEの活動に積極的に参加しています

Partnership on AI

Partnership on AIは、AIの倫理的な開発と使用を促進するための業界団体であり、Microsoftは創設メンバーの一つです。この団体は、AIの透明性、公平性、安全性を確保するためのガイドラインを策定しています

AI for Science

AI for Scienceは、Microsoft Researchが設立したグローバルな組織であり、機械学習、量子物理学、計算化学、分子生物学、流体力学、ソフトウェア工学などの分野の専門家が参加しています

顧客データに関する取扱い (クラウドサービス全般)

Microsoftのクラウドサービスにおける顧客データの取り扱いを契約上で定義しております

<http://aka.ms/dpa>

(抜粋)

データ処理の性質 (権利の帰属)

マイクロソフトは、以下に規定された制限事項に従って、(a) 文書化されたお客様の指示に基づき、お客様に本製品および本サービスを提供するため、ならびに (b) 本製品および本サービスのお客様への提供に付随する事業運営のためにのみ、顧客データ、プロフェッショナル サービス データ、および個人データを使用し、その他の方法で処理します。両当事者の間においては、お客様が顧客データおよびプロフェッショナル サービス データのすべての権利、権原および権益を留保します。マイクロソフトは、本条でお客様がマイクロソフトに付与する権利を除き、顧客データまたはプロフェッショナル サービス データに関するいかなる権利も取得しません。本項は、マイクロソフトがお客様にライセンスするソフトウェアまたはサービスに対するマイクロソフトの権利には影響しません。

お客様に本製品および本サービスを提供するための処理

マイクロソフトは、本製品および本サービスを提供するときに、次の目的のために顧客データ、プロフェッショナル サービス データ、または個人データを使用したり、またはその他の方法で処理したりしません。

(a) ユーザー プロファイリング、

(b) 広告目的もしくは同様の商用目的、または

(c) 新しい機能、サービス、もしくは製品の作成、あるいはそれ以外の目的での市場調査。

ただし、かかる使用または処理が、文書化されたお客様の指示に従っている場合を除きます。

生成 AI が生成するコンテンツの取り扱い

生成AIが生成するコンテンツに関しては、Microsoftは出力が著作権で保護されているか、他ユーザーに対して法的拘束力があるか判断致しません。

これは、生成 AI システムが、複数の顧客からの同様のプロンプトまたはクエリに対して同様の応答を生成する場合があるためです。そのため、複数の顧客が、同じまたは実質的に類似したコンテンツの権利を持っているか、または権利を所有または主張する可能性があります。

第三者が、Microsoft の Copilots またはそれが生成する出力の使用による著作権侵害で法人顧客を訴えた場合、顧客が当社製品に組み込まれているガードレールとコンテンツ フィルターを使用している限り、Microsoft は顧客を弁護し、訴訟の結果として生じる不利な判決または和解の金額を支払います。

詳細はライセンス契約のCustomer Copyright Commitmentという項目において定められております。

<https://www.microsoft.com/licensing/terms/product/ForOnlineServices/all>

※実際の内容は次ページに記載 (最新情報は上記Webに記載されている契約条項をご確認ください)

マイクロソフトの AI 利用時の契約と利用者行動規範

Microsoft のAIサービス利用に関して、弊社のサービスを利用する顧客に対しても行動規範の要件が追加で規定されております。※製品条項自体でも法律違反や不正目的での利用が禁止されております。

<https://learn.microsoft.com/ja-jp/legal/ai-code-of-conduct>

責任あるAIの要件:

- 不正行為の検出と防止
- 入力と出力の技術的制限
- AI生成物の明示
- 継続的なテストと人間の監視
- フィードバックチャネルの設置
- 法的通知と同意の取得
- セキュリティとアクセス制御の強化

使用制限:

- 法律や規制に違反しないこと
- 個人や社会に害を与えないこと
- 誤情報や欺瞞の禁止
- 感情状態の推測の禁止
- 特定の用途での顔認識の禁止

コンテンツ要件:

- 有害なコンテンツの禁止（例：暴力、テロ、差別、誤情報）
- 性的なコンテンツの禁止
- 自殺や自己傷害のコンテンツの禁止

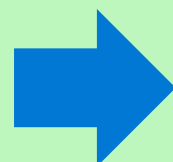
AIに限らずサービス利用に関する行動規範への違反/不正利用/問題等についてフィードバック方法と対応を整備

不正行為: AIサービスの不正使用や悪用

有害なコンテンツ: 暴力、テロ、差別、誤情報などのコンテンツ

プライバシー侵害: 個人情報不正使用や漏洩

著作権侵害: 他者の著作権を侵害するコンテンツ



サービスの停止

アカウントの削除

法的措置

参考情報

内容	サイト
責任あるAIの原則	責任ある AI の原則とアプローチ Microsoft AI
責任あるAIの原則に関する報告書	Responsible AI Transparency Report
マイクロソフト製品/サービス データ保護追加契約	http://aka.ms/dpa
Azure Open AI での マイクロソフトによる不正使用の監視	Azure OpenAI Service の不正使用を監視する - Azure OpenAI Microsoft Learn
Azure Open AIで実施しているコンテンツフィルタ	Azure OpenAI Service のコンテンツのフィルター処理 - Azure OpenAI Microsoft Learn
Azure Open AI での不正利用監除外除申請 Azure Open AI のコンテンツフィルタ除外申請 ※制限解除にはMicrosoftによる審査・承認が必要です	Limited access to Azure OpenAI Service - Azure AI services Microsoft Learn
Microsoft 365で実施しているコンテンツフィルタや脱獄対策等	https://learn.microsoft.com/ja-jp/copilot/microsoft-365/microsoft-365-copilot-privacy
Power PlatformやDynamicsで実施している、 コンテンツフィルタや脱獄対策等	https://learn.microsoft.com/ja-jp/power-platform/faqs-copilot-data-security-privacy
Customer Copyright Commitmentに関する契約関連事項	https://www.microsoft.com/licensing/terms/product/ForOnlineServices/all
Microsoftのプライバシー関連情報	Microsoft のプライバシーに関する声明 – Microsoft のプライバシー



英国法務省・王立裁判所・審判所サービス (HMCTS) は、安全かつ規制された AI サービスの導入のため Microsoft Foundry を活用。プラットフォーム運用 サービスデスクに届くリクエストはわずか 13% に



お客様：英国法務省

業種：政府機関・法執行機関

従業員数：10,000 人以上

国：イギリス

公開日：2025 年 10 月

[全文はこちら](#)

パートナー：Kainos

Kainos では、テクノロジーを活用して
お客様の実際の問題を解決し、企
業の大きな課題を乗り越え、人々の
生活をより楽にしています。

「このプロジェクトは開発者の生活をできるだけ楽にすることを目指しており、私たちはそれを実現しました。「私たちは今、イノベーションの自由と標準化のバランスが優れており、スタッフ、専門ユーザー、市民が使用するデジタルサービスをより効率的かつ効果的に提供できるようになりました」

Linda Green, Head of Platform Operations,

HM Courts & Tribunals Service (HMCTS)

背景と課題

英国法務省・王立裁判所・審判所サービス (HMCTS) は生産性の障壁を取り除き、ソフトウェアの提供を改善し、AI サービスへのアクセスを可能にする効果的な方法を求めています。

ソリューション

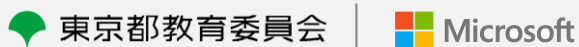
Kainos はネットワーク、コンテナ、ストレージ、キャッシュ、データベースに最高クラスの Microsoft Azure サービスを使用しました。Microsoft Foundry は、AI フレームワーク内で管理され、安全かつ規制された AI サービスの導入を提供するために使用されました。

導入の効果

ソリューションの展開以降、プラットフォーム運用サービスデスクの需要の平均 74% が開発者を支援するエージェントによって自律的に処理されており、そのうちプラットフォーム運用サービスデスクに届くリクエストはわずか 13% にとどまっています。

製品とサービス

Azure AI Foundry, Azure OpenAI, Azure AI Search, GitHub Copilot, Azure



東京都教育委員会は、新たな教育の実践と校務の効率化に向けて都立学校 16 万人が活用する安心・安全な「都立 AI」を Azure OpenAI で構築

お客様 : 東京都教育委員会

業種 : 政府機関

組織の規模 : 従業員 10,000 人以上

国: 日本

公開日: 2025 年 8 月

パートナー : コニカミノルタジャパン株式会社

[全文記事はこちらから](#)

「生成 AI という魅力的なテクノロジーに、児童・生徒が惹かれない理由はありません。それに、彼らが成長して社会に羽ばたく頃には“当たり前”の技術として浸透していることでしょう。情報リテラシー / 情報活用力を教育すると共に、生成 AI を教育現場にも活かしていくことは、教育の現場に携わる私たちが避けることのできないテーマです」

—東京都教育庁 総務部デジタル推進課 デジタル企画担当課長 瀧田 健二 氏

背景と課題

東京都教育委員会では、教育現場における生成 AI の取り扱いについて、いち早く検討を開始。2023 年 6 月には文科省のガイドラインに先立って ChatGPT など生成 AI の取扱いについて都立学校に通知。さらに同年 9 月から「生成 AI 研究校」を指定して、教育現場における生成 AI 活用を積極的に研究してきました。

ソリューション

1 年半に渡る「生成 AI 研究校」の取り組みを経て、教育現場における生成 AI 活用の手応えを得た東京都教育委員会は、全都立学校 (256 校、児童・生徒・教職員 約 16 万人) を対象に生成 AI 活用を行うことを決断。そのインフラを構築するために 2024 年 3 月に一般公開入札を実施。落札したのは Azure OpenAI を活用した事業者の提案でした。

導入の効果

「都立学校向け生成 AI (都立 AI)」は教育現場に最適化された生成 AI 体験の設計や、セキュリティとガバナンスを徹底することで安心・安全な環境を実現。教職員が校務効率化のために作成したプロンプトを共有できる機能などを実装することで、新しい学習の在り方と校務の効率化を同時に推進する一助として機能。都庁 DX アワード 2025「サービス部門」にて知事賞を受賞。

製品とサービス

Azure OpenAI



英オックスフォードシャー州議会は Copilot により実務 担当者は 25,200 時間削減。採用プロセスは 年間 8,000 時間短縮

お客様：Oxfordshire County Council（英オックスフォードシャー州議会）

業種：地方自治体・政府機関

従業員数：1,000 ~ 9,999 人

国：イギリス

公開日：2025 年 11 月

[全文はこちら](#)

「このプロジェクトは、従来のサービスエリアや部門ごとの分断型ではなく、組織全体で全体的に協力できる素晴らしい例となっています」

Caroline French, Head of Transformation and Digital, Oxfordshire County Council

背景と課題

デジタルドリブンの地方自治体になることを目指す英オックスフォードシャー州議会は、生成 AI を重要な推進要因と見なしています。

ソリューション

英オックスフォードシャー州議会は今、すべての従業員に Microsoft Copilot へのアクセスを提供するという大胆な決定を下しました。

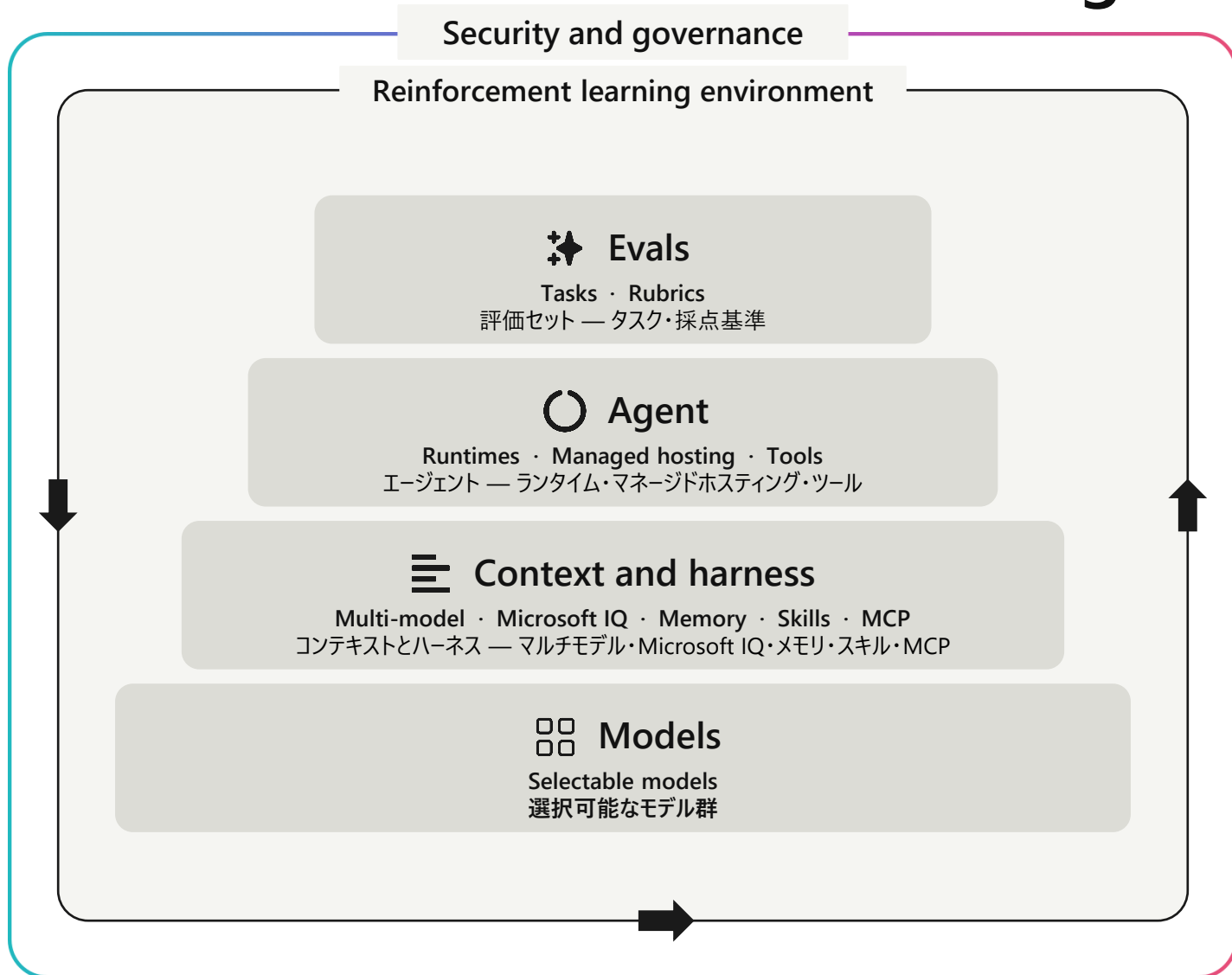
導入の効果

その結果、マネージャーと実務者は合計で 25,200 時間の節約を実現しています。採用プロセスは毎年 8,000 時間も短縮されています。パイロット段階では、純現在価値が 330 万ポンドと特定されました。

製品とサービス

Microsoft 365 Copilot, Microsoft Copilot, Microsoft 365 Copilot Chat, Microsoft Teams, Power BI, Microsoft Purview, Microsoft Purview Data Loss Prevention, SharePoint

バラバラな組織内の知見を組織知とする事がAI活用の鍵 ～Hill climbing machine～



設計の要点

お客様の成果データはプライベートな
評価セットとして保護される

コンテキストとハーネスの独立性

モデル選択の柔軟性

トークン効率の制御

暗黙知がモデルの重みに蓄積される

■ 未来 —— フィジカルAI（現実世界で動くAI）

デジタルと物理世界をつなぐAI（例：Microsoft Research「Magma」）



Magma（Microsoft Research／CVPR 2025）

「デジタル」（画面の操作）と「物理」（ロボットの操作）を、1つのモデルで「見て・計画し・実行する」、世界初のVLA（視覚・言語・行動）基盤モデル。

- UIの操作も、ロボットの操作も、1つのモデルでこなす
- 自ら計画を立て、行動の手順を予測して実行
- Azure AI Foundry・GitHub で公開（研究成果）

意味： AIは「考える・創る」から「現実世界で動く」段階へ。これが年表の最後に挙げた「フィジカルAI」です。

現実世界に広がるAIの基盤モデル（Microsoft Researchの例）



Magma

ロボット操作とUI操作を横断して「見て・計画し・実行する」行動AI（VLA基盤モデル）。

MS Research / CVPR 2025 • Azure AI Foundry



Aurora

地球・大気の基盤モデル。気象・台風・大気汚染を高速予測（従来比 約5,000倍高速）。
防災＝被災者支援に通じます。

MS Research / Nature 2025

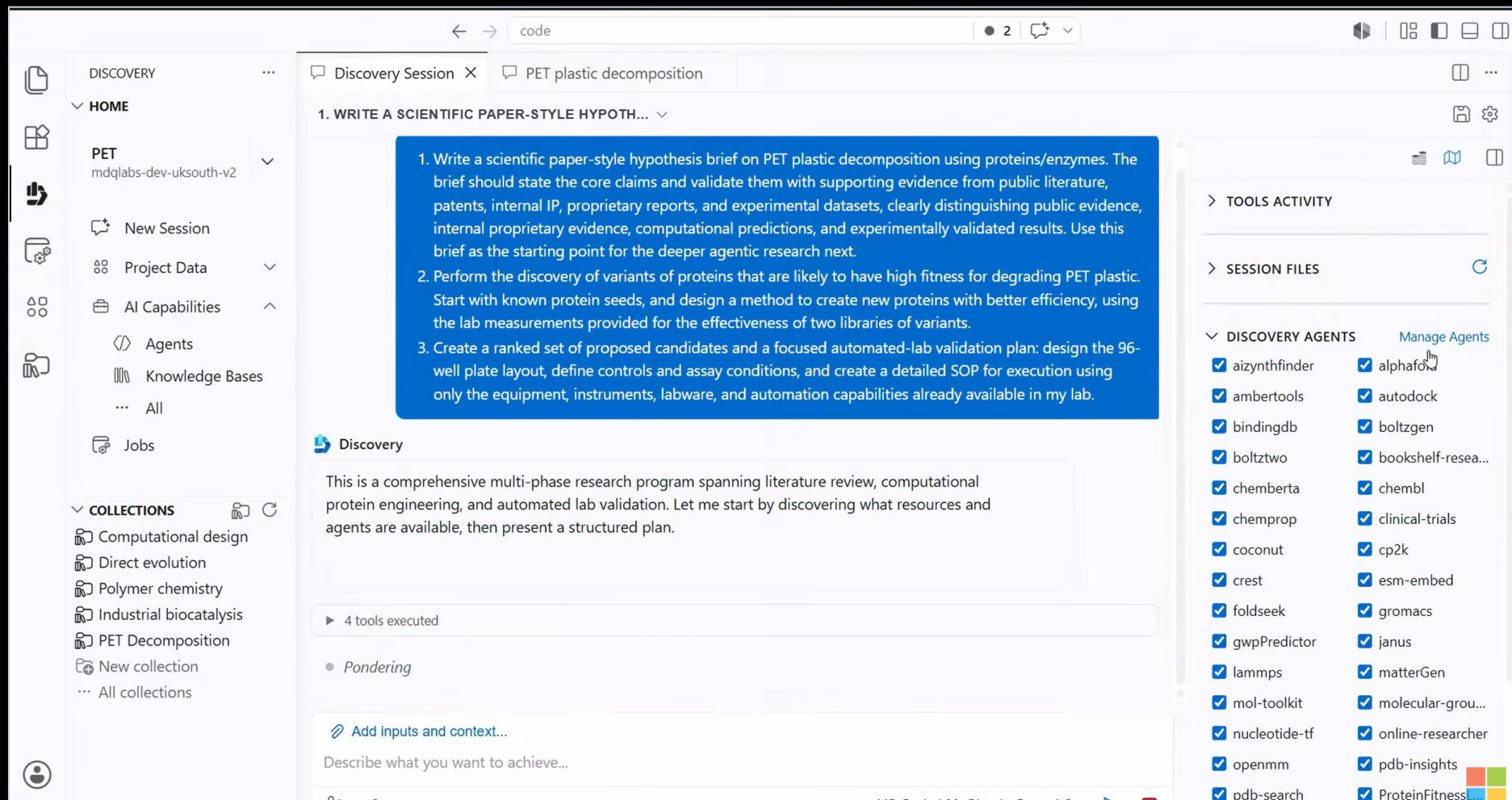


Microsoft Discovery

科学エージェント群が材料・創薬などを自律的に探索・実験設計（本編でも紹介）。

MS Research / Build

公共への示唆：「現実世界で動くAI」は、災害・気象の予測（防災）や科学の加速など、社会課題の解決に直結し始めています。



STEP 1

研究ゴールを自然言語で指示 — 専門AIエージェント群が起動

「PETを分解する酵素」の研究目標を、論文の要旨のように自然言語で記述し、①仮説ブリーフ作成 ②高活性なタンパク質変異体の探索 ③候補のランク付けと自動実験計画 までを一括で依頼。右側には AlphaFold・ESM・GROMACS・AutoDock など多数の科学専門エージェントが待機し、目的に応じてAIが自動で選び、組み合わせて実行します。

▶ 未来への期待

研究者は「何を知りたいか」を書くだけ。文献調査から計算・実験設計までを、AIが自律的に統合・実行します。

— 複数のAIエージェントが分組・協調して一つの業務を実行



Foundry Models

11,000+ models

世界中（日本を含む）で多数のAIモデルが提供され、いまでも増え続けています。Azure AI Foundry では 11,000 を超えるモデルから、用途・性能・コストに応じて最適なものを自由に選べます。



MAI



deci.

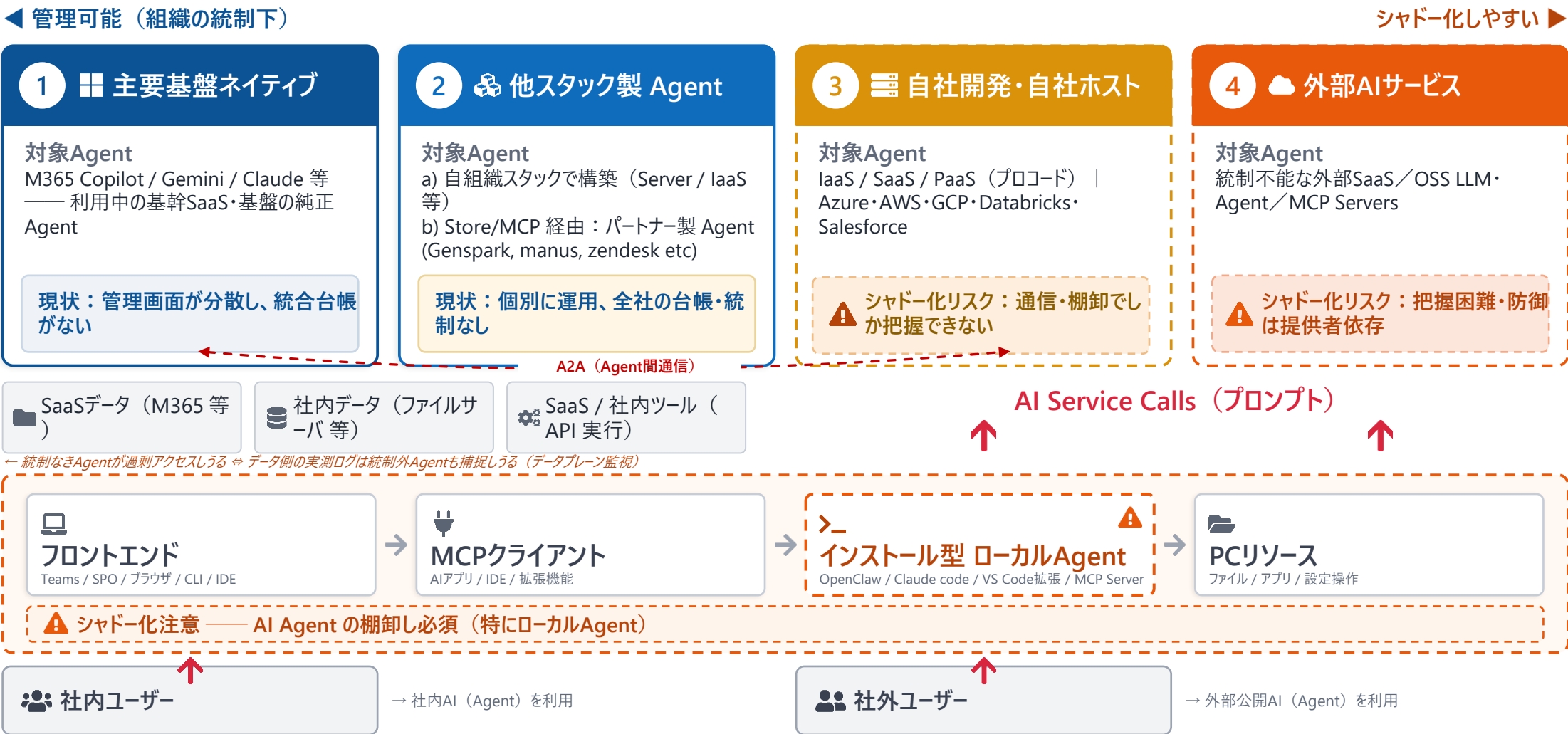


saifr

AI21



企業における AI Agent の全体像 ——— 見えなければ、統制できない



❓ 対策前 = 〈5つの問い〉に即答できない状態： Agent はどれくらい？ / シャドーAIは？ / 誰の権限で？ / データ保護は？ / 攻撃検知は？